

# 可茂会後援会報

第28号 2020.12.1

発行  
社会福祉法人  
可茂会後援会  
可児市瀬田1648-9  
発行者 加藤 政博  
TEL 0574-64-3366

## コロナ禍を生き抜く

可茂会後援会会長 加藤 政博



後援会員の皆様には、日頃からご支援ご協力を頂き心よりお礼申し上げます。

今年は、新年早々中国の武漢に端を発した新型コロナウイルスの感染があつという間に全世界に広がってしまいました。

可茂学園も、外出・帰宅規制、通所サービス休止など様々なコロナ感染予防対策が講じられ、利用者はもとより職員を始め関係者及び保護者の皆様には、大変なご苦労、ご心配をお掛けしています。今のところ、学園関連の感染は発生しておりませんが、感染拡大の「第3波」が押し寄せており、まだまだ油断できない我慢の日々が続くものと思われます。

学園内では、基本の感染対策は勿論の事、周辺地域の状況に合わせた対策が実施されており、保護

者としても帰宅時に風邪なども含めコロナ感染させないよう十分気を付けて行く必要があると考えます。

この様な状況の中、今年は後援会活動もほとんど中止せざるを得ませんでした。少しでも出来る事で応援をして行こうとの思いから、一部役員の方にご相談をして、8月に夏期休暇中の帰宅及び通所サービス休止に伴う激励として利用者及び職員の皆さんへドリンク等の差し入れ、11月には昨年続き福祉センターへ後援会から新型コロナウイルスを寄贈させて頂きましたのでご報告をさせて頂きました。(詳細は、役員会及び総会で後日報告させて頂きます。)

この頃は、コロナ禍の中で様々なことが起きていますが、根拠のない噂や情報に惑わされることなく、人を大切に思う気持ちを強く持ち続けながら、一方で新しい生活のスタイルや暮らし方を工夫し

て行くことが大切だと思います。俳人松尾芭蕉の提唱した「不易流行(ふえきりゆうこう)」という言葉がありますが「物事には、変わらないもの(不易)と変わるもの(流行)の両方が必要であり、そのバランスが大切である」という考え方です。

これまで、私達保護者には家族の障害を受け入れ、それぞれの生活を築いて来た経験があります。何よりもこの貴重な経験と「不易流行」の考え方がこそがコロナ禍を生き抜くための重要なファクターだと考えます。

そして、どんな時にも希望をもって「ピンチをチャンスに変える」くらいの気持ちで頑張っていることが必要であるとも思います。いずれにしても、近い将来、世界中の人々が協力し合ってコロナウイルス感染症を終息させ、平穏な日々が早く訪れることを期待したいと思っています。

最後になりますが、今後とも、後援会の取り組みにご理解ご協力を宜しくお願いいたします。

以上

花と緑とからくり時計の 可茂学園

# 安心して生活する

施設長 長谷川伸一



会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は可茂会後援会に多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。

今年四月十一日に可茂会後援会総会を予定していましたが、新型コロナウイルスによる感染症の拡大予防のため中止とし、書面による決議とさせていただきます。

四月十日に県の「非常事態宣言」を受けて可茂学園でも行事等の延期、外出、面会、帰宅の制限、通所短期入所の閉鎖と、状況などを鑑みながら随時感染対策会議を開き検討しながら今日までやってまいりました。その間には利用者の方にはいろいろな制限を我慢してもらいながらマスク着用、手洗い消毒、密にならないよう等お願いしてきました。職員の方には利用者の方が自粛生活の中で楽しんでもらうために、塗り絵や工作、勉強やおやつ作り等の時間を設けて取り組んだり、イン

ターネットの配信サービスを利用して、ダンスや音楽などを楽しんでもらっています。また、お祭りやゲーム大会、お部屋さん体験など日々創意工夫しながら取り組んでいる姿には、管理者として頭が下がる思いであります。

国の指針として施設入所者の地域生活の移行が勧められています。障害支援区分の高い人や高齢になつた人が在宅生活に戻ることやグループホームで生活することは、困難が予想されています。グループホーム制度が生まれる前、親元を離れた障害者の暮らしの場は入所施設が中心でした。当時は施設の中で保護されて一生を送ることが、障害者にとつて幸せだと考える人も少なくありませんでした。障害者の暮らしが変わるきっかけになったのは、昭和五十六年の国際障害者年。それまで入所施設が中心であった日本で、障害者も障害のない人と同じように、町中で暮らすべきという考え方が広がっていきました。そして平成元年、少人数で家庭のように暮らすグループホーム制度が創設されました。それから三十年、障害のある人が望む地

域で、必要とする支援や障害福祉サービスの提供を受けながら、安心して暮らせることを目指してきました。

これまでは、親亡き後の居住の確保として入所施設が利用されてきましたが、最近はグループホームを親亡き後の生活の場と考える人も増えてきているようです。

障害者福祉は、この十年激動の時代でありました。福祉サービスの拡大が図られ、様々な仕組みを選択できるようになってきました。また自己決定や権利擁護をはじめとする利用者中心の支援の在り方が勧められ、虐待防止や差別禁止等の法整備も進められています。今後も国の動向だけでなく、多様化・専門化する障害のある人や家族のニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいく思いです。

終わりに、今年は季節ごとのイベントがないまま過ぎて季節感を感じられない今日です。施設は冬季に向けた健康管理も必要となってきました。新型コロナウイルスの流行はまだ予断を許さない状況です。会員の皆様におかれましては、基本的感染対策のマスク着用・手洗い手指アルコール消毒・三密の回避をしていただき、ご健勝にしてお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

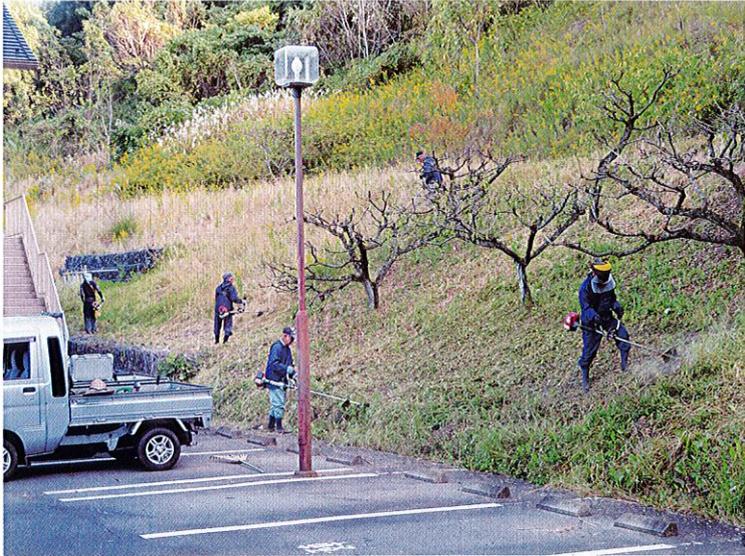
## 資源回収報告

資源回収は、皆様のご協力をいただき実施しております。引き続き、よろしく願います。

令和2年12月1日現在

実施日	1月18日	4月22日	7月28日	合計
売上	4,770	4,590	4,500	13,860
可児市奨励金		2,440		2,440
合計	4,770	7,030	4,500	16,300

【回収品目】 アルミ缶、段ボール、新聞紙、雑誌  
※スチール缶、ペットボトル、ビンは回収していません。

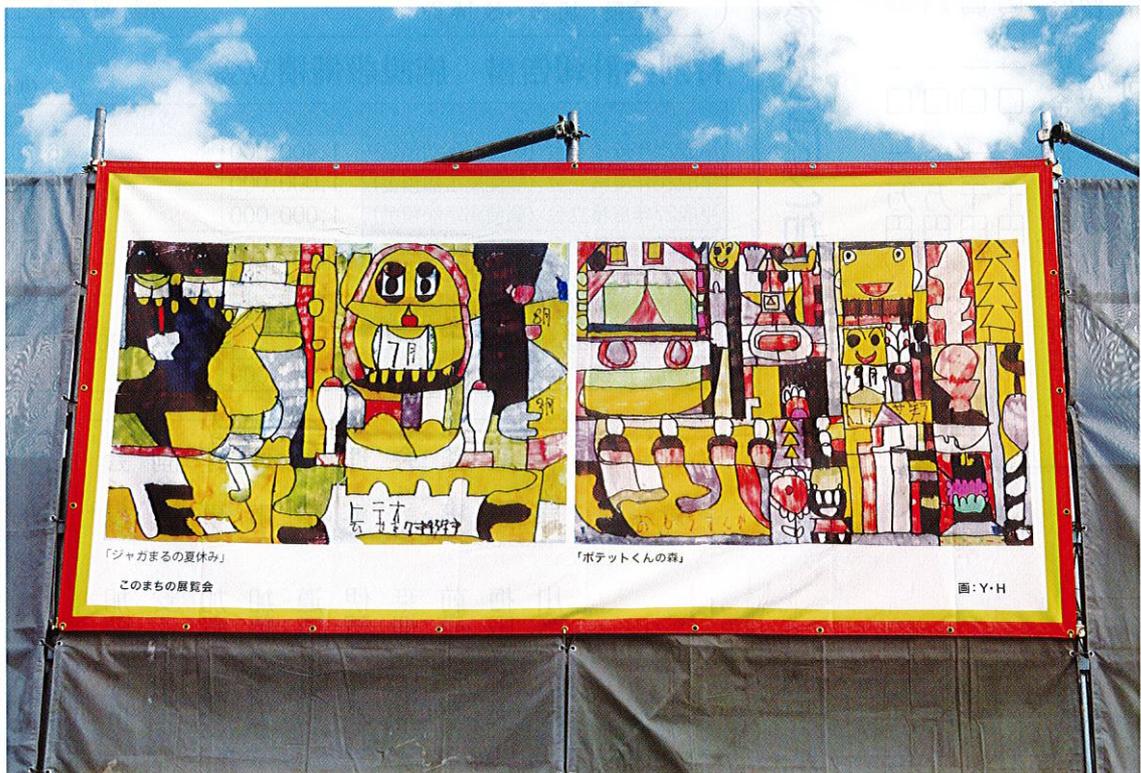


環境整備（草刈り）  
をしました。

※後援会の委託業務で、川辺町シルバー人材センターの皆さんに斜面の草刈りを行っていただきました。

アート作品の展示  
(利用者さんの作品です)

※可児市中恵土地内の建築現場に高々と展示されています。道ゆく人は、足を止めて見上げていました。(福祉と文化をつなぐプロジェクト「このまちの展覧会」に選ばれました)



令和元年度  
社会福祉法人可茂会後援会決算書

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 会費	1,570,000	1,535,000	-35,000	
特別会員	90,000	150,000	60,000	30,000円×5口
正会員	1,200,000	1,100,000	-100,000	10,000円×110口
育成会員	180,000	192,000	12,000	3,000円×64口
賛助会員	100,000	93,000	-7,000	1,000円×93口
2. 雑収入	101,000	79,249	-21,751	バザーの売上等、資源回収、補助金等
3. 前期繰越金	163,637	321,410	157,773	
合計	1,834,637	1,935,659	101,022	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 会議費	20,000	14,693	-5,307	弁当代等
2. 事務費	580,000	548,474	-31,526	
通信費	10,000	4,794	-5,206	切手代
印刷製本費	100,000	90,200	-9,800	会報印刷代
事務消耗品費	20,000	3,480	-16,520	コピー用紙、封筒
施設整備費	400,000	400,000	0	草刈り（業者委託）、三ツ池ホーム含む
雑費	50,000	50,000	0	春祭り協賛金
3. 振込手数料	3,000	1,452	-1,548	郵便振替手数料
4. 積立金	1,169,633	1,000,000	-169,633	施設整備積立金
5. 次期繰越金	131,633	371,040	239,407	
合計	1,772,633	1,935,659	163,026	

収入総額 1,935,659円

支出総額 1,564,619円

収支差額 371,040円（次期繰越）

**監査報告書**

令和元年度の可茂会後援会決算について監査の結果、その収支は正確に処理され、また証拠書類も整備されています。よって適正であることを認め報告いたします。

令和2年4月1日

監事 前島宗直

社会福祉法人可茂会後援会  
会長 加藤 政博 梅田孝子

**特別会計報告書 施設設備積立金**

(単位：円)

	収入	支出	残高
平成25年度積立金（郵便局定額預金）	1,400,000		6,702,000
平成26年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		7,702,000
平成27年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		8,702,000
平成28年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		9,702,000
平成29年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		10,702,000
平成30年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		11,702,000
可茂学園テレビ2台寄付（令和2.2.10）		440,000	11,262,000
令和元年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		12,262,000

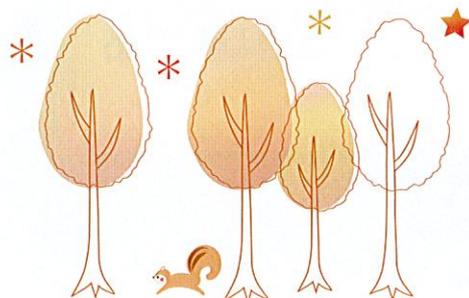
**可茂会後援会にご加入を**

年間会費

特別会員	三万円
正会員	一万円
育成会員	三千元
賛助会員	一千元

可茂学園施設整備資金確保のために、新会員の加入をお勧めください。

可茂会後援会事務局  
TEL 六四・三三六六



事務局長	監事	監事	理事	理事	理事	理事	副会長	会長	
川合 哲也	梅田 實美	前島 宗直	栗畑 直喜	伊賀 光邦	道家 義昭	加藤 高史	加藤 敏明	安江 剛生	加藤 政博

令和二年度  
可茂会後援会役員

令和二年度

後援会員名簿

=敬称略=

特別会員

- 〔二〇〕 吉田整備(株)
- (株)濃飛葬祭
- 工一入薬局広見店
- (株)三宅設計

正会員

- 〔三〇〕 長瀬 邦夫 加藤 政博
- 〔二〇〕 山本 孝盛 揖斐 好久 宮川 春子
- 前島 宗直 村瀬 正樹
- 〔二〇〕 (有)フエニックス
- ミスノ観光
- 小境電気工事(株)
- (有)中部プロパン瓦斯商会
- (株)新興設備
- (株)ジエイアイシーセントラル岐阜
- 菅井 省一 藤村 恒行 宇野 剛由
- 小川 裕一 可児 薫 堀井 幸一
- 後藤 邦久 高木 武典 一瀬 節江
- 森 鉄雄 山田十九夫 藤野 和彦
- 栗畑 直喜 斉藤 道夫 近藤 善守
- 伊賀 光邦 狩川 正光 安江 公男
- 山岡 郁穂 小島 孝三 前田千賀子
- 堀井 泰弘 亀貝 進 加藤 敏明
- 曾我 巨樹 畑尻 都 竹原 利枝

育成会員

- 〔二〇〕 加藤 孝子 河合 政也 川村 雅哉
- 〔二〇〕 山田多美恵 奥田 智恵 藤野三津子
- 栗畑 澄子 栗畑 靖紀 栗畑千代美
- 斉藤みはる 加藤あゆみ 加藤 幸子
- 長尾 和子 谷口 里子 遠藤八重子
- 佐々美佐子 石坂 紀子 渡辺 浩英
- 小栗 意夫 伊藤 克人 堀田 泰史
- 半澤 明美 山田 順子 長瀬 洋子
- 市川 尚幸 渡邊 淳 宮口 信久
- 余語 潤一 山口 優子 白村味紀子
- 小椋 竜也 酒向 清治 高木 洋一
- 古田 和子 鍵谷美智代 安江 剛生
- 梅田 實美 加藤 高史 馬場 忠外
- 日比野恭治 白川 彰美 宮川加代子
- 玉井 伸二 小川 和正 近藤なみ子
- 山内 千司 吉田 健治 和之宮賢治
- 千葉 進 伊藤 貞行 四之宮賢治
- 鈴木 正隆 加藤美根子 秋元 進
- 河合 進 上田 重博 谷口 義晴
- 大崎 俊昭 鈴木美由紀 道家 義昭
- 佐々 立夫 寶亀 久代 小川 和則
- 高村 峰子 荻山百合子 中原 健二
- 内藤 寛子 島尻 勇人 曾木登美子
- 藤田 秀子 中西 敦子 菅谷 ゆか
- 柘植 和廣 石原 福美 朝日 誠一
- 河合 透 眞鍋 泰司 可児 幸子
- 渡辺須磨子 堀 智子 花井 一彦
- 長谷川伸二 山口 和己 鈴木 広行

賛助会員

- 〔五〇〕 山田 輝世 小島九十男 杉山 洋志
- 〔二〇〕 古田 益郎 大嶋 久興 大野起代子
- 〔二〇〕 大野 幸子 伊藤 正和 井藤三千子
- 長瀬 修一 石原佐喜夫 向井 信
- 〔二〇〕 山本 信男 長瀬 寿 石原 洋子
- 渡辺美知夫 原科 久子 石原 洋子
- 中根 義典 長瀬 京子 古田 敬子
- 小島みどり 奥村ひろみ 加藤 裕子
- 脇田 純子 佐藤しずか 水野 信子
- 杉本 富夫 和田 佳成 佐藤千代美
- 清水恵三子 熊谷 恵子 宮原 香代
- 柴田 美雪 石原すみえ 泉濱 巴織
- 梶浦 芳子 可児 伸子 山本美智子
- 安藤 節子 渡辺 日鶴 今井 夏子
- 粕谷美和子
- 加藤 拓男 池田 雄亮 山口 智也
- 瀨 久也 伊藤 博人 和田 雄樹
- 川合 哲也 高橋 将也 原 和也
- 加納 学 山口 遼 井戸 駿介
- 平林 耕生 丸山 雅 平林なつみ
- 松原 裕子 金城里佳子 市橋 香奈
- 永井 香帆 小嶋ゆうこ 兼子 雅代
- 前島恵津子 安田有里菜 永瀬 和子
- 山口祐実奈 平手 志歩 中村なのは
- 伊藤 和代 川合圭伊子 飯島 明美
- 塩谷 志保 武藤 行子

(令和二年十一月末日現在)

通所のテレビを新しくしました!!



後援会でテレビを寄贈しました。  
 今年度は、福祉センター活動室に設置して活用しています。利用者の皆さん、大喜びです。  
 会員の皆様のご支援・ご協力ありがとうございました。

昨年度に寄贈したテレビ2台の活用状況



※「エビ!」「カニ!」と、歌って踊って  
 “エビ・カニ体操”。ユーチューブをテレビで見えています。(プレイルームにて)



※テレビに釘付け。でも、密にならないようにしています。(中央ホールにて)

特茶とOS-1を差し入れました



※利用者の皆さんと職員が熱中症にならないよう、こまめに水分補給しています。